

私は今から凡そ40年前、300年余り続いた海の暮らしから転業せざるを得なくなりました。

私が探し求めたものは、家族と一緒に働き、次の世代へと継承できる商売でありました。親達が努力して築いたものを子供達が引き継いでくれる家業であるならば、転業後のどんな苦勞にも耐えられると思ったからであります。

小さな同族企業が大企業、大型店との競争の中で生きていく方法は親子兄弟、同族が力を合わせる事が最大の武器と考えたからでもあります。

生存競争の厳しい中で、人類が今日まで生き残り、栄えてきたかを思う時、人類は群れを作り、経験と知恵を生かして互いに分かち合い、助け合ってきたから万物の靈長として今日まで栄えてきたのであります。

人間はそうした社会的動物ですから、精神的にも群れが作れないと生きにくい動物であります。

心の絆（感謝と感動の共感）を家族、友人、同志、師と持てないと生甲斐、安心感が得られないものであります。

また一方、子孫、後継者も心の絆を持たないと同じ様に生甲斐、安心感を得られないものです。

商売の中でもよき先輩、同僚、後輩があることによって、向上進歩があり、楽しみが生まれるものです。

かつて日本の商いとては、親子三代父親が厳しくしつけ、母親がなだめ、祖父母が諭して子を育て、人作りをしてきた素晴らしい家族愛がありました。

小さな商売であればある程それが大切なことだと私は思っています